

「時」

校長 滝口健二



時間というのは実に不思議なもので、とても正確に、それこそ全世界の人に平等に刻まれ、与えられているものではありませんが、「時」として、「あっという間」に感じたり、「なかなか進まなかったり」するものです。例えば授業。自分の好きな教科だったり内容だったりすると、とても楽しく「あっという間」に時間が過ぎてしまう。逆に苦手な科目や内容だったり、課題が簡単すぎたりすると時間は「なかなか進まない」ものです。皆さんにも経験があるのではないのでしょうか。何か

に集中して取り組んでいると「時」は短く、嫌々（いやいや）取り組んでいると長く感じるのでしょうか。

年号が令和に代わって3年。この12月が終われば令和4年がスタートします。当時の官房長官の菅さん（令和おじさんと呼称されていたことを思い出します。）が顔のわきに額を掲げて「令和」を発表したことが、ついこの間の事のようにも、ずっと前のことのようにも感じられます。この感じ方も人それぞれなのでしょうね。皆さんはこれまでの令和の3年間でどのように感じているのでしょうか。

「時」にまつわる話を調べてみました。

- 時は得難く失い易し【ときはえがたくうしないやすし】 好機会はなかなか巡って来ないし、訪れて来ても逃しやすい。絶好の機会を逃すな、ということ。
 - 時は金なり【ときはかねなり】 時は貴重なものだから、お金と同じように無駄使いしてはならない、ということ。
 - 書き入れ時【かきいれどき】 1日のうちで仕事が最も忙しい時間帯のこと。また、商品が良く売れる時期のこと。
- 調べてみると「時」「時間」＝「大切なもの」という話が多いような気がします。

中学校生活は3年間しかありません。私たちそれぞれの「時」は止まることなく流れていきます。そして取り戻すことはできないのです。だからこそ今を大切に生きて（過ごして）ほしいのです。そして自分を見つめなおし、自分の未来に思いを巡らせて、「今」を、「自分」を大切にしてほしいと思います。

それでも常に全力で、集中して、「時」の経つのも忘れて過ごしてばかりいたら疲れてしまいますよね。「時」には「ぼ～っと」電源OFFの状態も必要ですね。

新しい年がスタートします。年末年始の節目の時期に、1年を振り返り、来る（きたる）年の抱負も持ちたいところです。